

2. 情報館本館施設の概要（令和7年4月1日現在）

開館	平成8年7月27日
位置	厚岸郡厚岸町宮園1丁目1番地
建物構造	鉄筋コンクリート造2階建
建設面積	1階 996.9 m ² 2階 433.14 m ² 計 1,428.49 m ²
事業費	平成6年度 設計委託 20,394,000 円
	平成7年度 本体工事 604,177,400 円
	付帯工事 106,553,500 円
	工事監理委託 4,944,000 円
	備品購入費 59,997,000 円
	図書・視聴覚資料 40,258,000 円
	用地費 12,800,000 円
設備	一般図書コーナー45,000冊収容／児童図書コーナー10,000冊収容 閉架書庫 55,000冊収容／雑誌111誌（本館92誌・分館19誌） 新聞6誌 おはなしコーナー／紙芝居舞台 2台 検索コーナー／利用者用資料検索用システム（OPAC）端末1台 情報検索用パソコン1台 情報プラザ／飲食ができる談話室。 利用者用資料検索用システム（OPAC）用端末1台 AVコーナー／6ブース（DVD機器5台 DVD兼LD機器1台 VHS機器3台 カセット1台 レコードプレーヤー1台） コンピュータ実習室／パソコン8台 （視覚障害者用音声ナビゲーター・ソフト付） 視聴覚室／階段式固定席 50席 プロジェクター2台 DVD、BD機器 35mm映写機2台・16mm映写機2台・LD機器・VTR機器・CD機器・スライド映写機2台・レコードプレーヤー 会議室／40人規模の会議の開催が可能。 視聴覚室と同様の装置の使用が可能。 ※視聴覚室・会議室同時使用／壁の移動で120人規模の映画会、講演会の開催が可能。ピクチャーレール ギャラリー／展示パネル12枚
受賞	平成9年2月 北海道赤レンガ建築賞（北海道） 平成9年6月 照明普及賞（社団法人照明学会） 平成14年5月 公共建築賞優秀賞（社団法人公共建築協会） 令和5年2月 第22回「JIA25年賞」受賞 （公益社団法人日本建築家協会）

3. 情報館の特徴

- 1 電算化により本館、分館、図書館バスの資料を一元管理。
- 2 地域の活性化を図るため、利用される情報館を目指す。
釧路管内の住民に利用を開放。
- 3 電子情報の充実
 - (1) CD-ROM検索パソコンを無料開放。(開館から平成 27 年度まで)
 - (2) 大型画面による電子掲示板で行事、催し物案内。
 - (3) マルチメディア情報(厚岸町の情報)端末の設置。
(開館から平成 20 年度まで)
 - (4) インターネットの無料開放(1 日 1 時間まで)。
 - (5) ホームページ・SNS による情報発信。
- 4 視聴覚資料の充実
 - (1) CD、DVD・BD(貸し出し可能なもの)、DVD、カセットブックの貸出。
 - (2) AVブースでのDVD、BD、LD、CD、ビデオ、カセットの個人視聴。
- 5 視聴覚室の充実
 - (1) 35 mm映写機、16 mm映写機をそれぞれ 2 台備え、各種映画会を実施していたが、平成 29 年度に 35 mm映写機 1 台が故障となり、映写機での映画を断念。修理については、見通しが立っていない状況である。
 - (2) DVD、BD、LD、ビデオ、パソコンをプロジェクターでスクリーンに表示することができる。平成 28 年 12 月から HDMI 形式での利用が可能となる。
 - (3) プロジェクター、スライド映写機などで各種講演会に対応できる。
 - (4) 階段式に固定席 50 席を設置し、ゆったりと映画を楽しむことができる。
 - (5) 視聴覚室、会議室の境界壁の移動で 120 席の映画会、講演会が開催可能。
- 6 コンピュータ実習室の設置
 - (1) 町民の情報リテラシー教育を実施。8 台のパソコンで IT 講習(初心者向けパソコン教室、ワード、エクセル、年賀状など)の講習会を開催。
 - (2) 視覚障がい者が自ら使用することができる、音声ナビゲーター・ソフトのあるパソコン(2 台)を設置。
- 7 資料の充実
 - (1) 新刊見計らい送本による、迅速な新刊本の提供。
 - (2) 豊富な新聞、雑誌の購入。新聞 6 紙、雑誌 111 誌(本館・分館)。

4. 情報館の電子サービス

1 図書館管理システムの電算化

(1) 本館、分館、図書館バスでの業務の電算化による資料の一元管理

- ① 本館と分館 クラウドサーバーによりデータを一括管理。
- ② 図書館バス 本館とオンラインにより、現地で貸出業務等ができる。

(2) 新刊見計らい送本システムの導入による迅速な新刊提供

① T R Cマークの購入。

利点：受入資料については、T R Cマークのダウンロードによりデータを作成。またT R Cが作成した書誌データを、図書館システムとの連携により検索することができる。

② 新刊送本システムの導入で、新刊図書が毎日、日本出版販売（日販）から情報館へ直送されてくる。

利点：一般書店と同じ速さで新刊図書が納品され、現物を見て選書できる。①のT R Cマークの購入と相まって、新刊図書を発行後1～2週間で利用者に提供することができる。

(3) T O C C A T Aマークによる視聴覚データを使用

C Dの現物をT O C C A T Aに送付ののちC Dデータが作成されS a a Sシステムからインターネット経由でデータを抽出しC Dの目録を作成する。

利点：収容曲名、演奏者名、作曲者名などで検索できる。

2 インターネットの利用

(1) 利用者開放

- ① 検索コーナーにあるパソコン1台（W i n d o w s）を利用者に開放。
- ② 光回線を使用。
- ③ インターネット利用は無料。
- ④ Wi-Fi 無料開放（申込み時 I D、パスワード発行）。

(2) 職員の利用

- ① 事務室内のパソコンでレファレンス用として利用。
- ② 道立図書館をはじめとして、道内公共図書館の蔵書検索、相互貸借。
- ③ 北海道新聞社、ニフティサーブと法人契約。
- ④ 北海道新聞記事の検索、ニフティは人物、雑誌記事等の検索に利用。

3 ホームページ・SNSの開設

(1) 情報館のP Rと利用者サービスを目的にホームページを開設

- ① 新着図書を受入から6週間表示。
- ② 情報館からのお知らせ、行事や展示の案内。
- ③ スタッフ日記（毎週更新）。
- ④ S N S（Facebook・Instagram・X）での行事や展示等の情報発信。

4 電子図書館の開設（令和4年度から）

- (1) 一般書、児童書の電子書籍を提供。
- (2) 行政資料や郷土資料のデータを電子書籍として提供。
- (3) 町内の小中学校の教師及び児童、生徒にIDとパスワードを発行し、学校で使用しているタブレット端末から利用できる。

5 インターネットによる資料検索システム

- (1) 情報館ホームページにアクセスして情報館資料を検索することができる。
 - ① 図書資料については、書影（表紙画像）を表示。
 - ② 予約や貸出・予約状況照会、お気に入りリストを表示。

6 利用者用資料検索システム（OPAC）端末の設置

- (1) タッチパネル方式で利用者資料検索システム（OPAC）端末を設置。

7 検索コーナー

- (1) 検索コーナーに利用者用資料検索システム（OPAC）とインターネット用パソコン各1台を設置。
- (2) インターネットを無料（1日1時間まで）で利用でき、Web上の情報データを検索できる。
- (3) タブレット端末1台設置し、電子図書館を閲覧できる。

8 情報プラザの情報端末

- (1) 情報館玄関横に飲食、歓談自由なスペース（情報プラザ）をつくり、検索コーナーに利用者用資料検索システム（OPAC）端末を設置。

9 玄関風除室電子掲示板

玄関に情報館案内として43型デジタルサイネージを設置。プレゼンテーションソフトで行事案内、図書館カレンダーを放映。

10 視覚障がい者用音声ナビゲーター・ソフトを入れたパソコンの設置

コンピュータ実習室の2台に視覚障害者用音声ナビゲーター・ソフトを導入。視覚障がい者が自分自身でパソコンを操作し、インターネットなどを利用できる。

11 コンピュータ実習室

8台のパソコンで町民向けの各種講座を実施。初心者向けIT講座（ワード、エクセル、年賀状講座など）、応用編等を実施。